

【安藤昌益研究の最前線（その12）】

安藤昌益の真営道医学を伝承した江戸の町医・
川村真斎による処方収集書『真斎聚方』における
「本草之部 附方」の処方群〔【X】＝No.210～333〕は、
『本草綱目』の【附方】からの記載であることの考証、
および『真斎聚方』の全体的な構成について

——【X-2】『真斎聚方』〔No.223～240〕

——さらに、真斎の「筆写・抄出方法」から
『真斎謾筆』と稿本『自然真営道』との
内容的同一性について考える

和田耕作

（KOSAKU WADA）

安藤昌益の真営道医学を継承した川村真斎（1785～1852）による処方収集書『真斎聚方』（内藤記念くすり博物館蔵本）は、浩瀚な著作である。

本稿では、本誌「PHN」35号に引き続いて、No.115以降の処方群と、それらに関連すると思われる『名家方選』三部作の処方群についての考証と考察を進める予定であったが、今回は、急遽予定を変更して、『真斎聚方』の「最終見出し」であるところの「本草之部 附方」〔No.210～333〕についての考証と考察を行うことにした。

「本草之部 附方」は、それまでの記述とは、大きく異なっており、その「出典」書目数も膨大であり、何による記載であるのかが、これまで不明であった。それは、『真斎聚方』における「最後の難関」と思われた。

しかし、実際に調査をしてみると、この問題は、意外にもすぐさま解決したのである。すなわち、「本草之部 附方」は、『本草綱目』の【附方】などからの記載であることが、このたび明らかとなった。

『本草綱目』は、各薬物などを、

【釈名】【集解】【正誤】【修治】【気味】【主治】【発明】【附方】

の八項目にわけて記述している。

真斎は、最後の【附方】の処方群の中から選んで記載していることが明らかになった。一部には、【発明】や【修治】の項目からも記載しているところもある。

『真斎聚方』「本草之部 附方」には、『本草綱目』の書名も、処方のある巻数や「薬物名」などの項目も記されていない。したがって、本稿では【附方】などのある『本草綱目』の巻数や分類項目、さらには「薬物名」などをも示して、『真斎聚方』「本草之部 附方」の内容構成が明確となるように記述することとした。

今回は、その「第2回目」であり、【X-2】『真斎聚方』〔No.223～240〕まで、すなわち、『本草綱目』の巻十二〔草部〕～十四〔草部〕に相当する部分である。

◎・『真斎聚方』の全体的構成について・◎

このたび、「本草之部 附方」の「出典」が判明したことにより、『真斎聚方』の全体的な構成を、次のように把握することができるようになった。

▼【第一部】・・・『真斎聚方』・「第一編」▼

- ・『真斎聚方』〔No.1～36〕
- ・この巻頭部分は、『類聚方集覧』などから記載によるものであり、おもに『真斎方記』へと増補されるところのものである。

〔『PHN』32号（2018年8月号）を参照〕

▼【第二部】・・・『真斎聚方』・「第二編」▼

- ・『真斎聚方』〔「A」=No.37～115〕+〔「B」=No.116～209〕
- ・次は、各医書群と『名家方選』三部作からの処方群である。

〔「A」については、『PHN』33号（2018年9月号）～35号

(2018年11月号)を参照。]

〔「B」については、今後、考証の予定であるが、その一部である安藤昌益と山脇東洋の処方群については、『PHN』30号(2018年4月号)・31号(2018年5月号)を参照のこと。]

・この「第二編」については、考証をさらに進めた上で、その構成について再考する予定である。

▼【第三部】・・・『真斎聚方』・「第三編」▼

・『真斎聚方』〔「A」=No.210~240〕+〔「B」=No.240~333〕

・『真斎聚方』の「第三編」と言える「本草之部 附方」は、このたび『本草綱目』【附方】などからの記載であることが明らかになったのである。

・『真斎聚方』の「本草之部 附方」は、分量的には、『真斎聚方』の中の三分の一を超えており、上記の「第一編」と「第二編」を合わせて、仮に『真斎聚方』の「前編」とすれば、明らかに『真斎聚方』の「後編」と呼んでよいものである。

〔「A」については、『PHN』36号(2019年1月号)および『PHN』37号(2019年2月号)を参照のこと。]

〔「B」については、今後、順次に考証の予定である。]

●・【出典】の考証のための文献一覧・●

・『新註校定・国譯本草綱目』(第四冊)〔草部〕

(昭和48年11月、新註増補版、春陽堂書店刊)〔和田文庫蔵〕

〔以下、『国訳本草綱目』(第四冊)と略記する。]

・〔明〕李時珍『本草綱目』(全二冊)

(1986年5月、商務印書館香港分館刊)〔和田文庫蔵〕

・『補註・本草綱目』(上巻、多紀安元遺稿、多紀鶴郎・永島忠共纂)

(大正四年十月、半田屋医籍商店刊)〔和田文庫蔵〕

▼凡例▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔金〕○・・・・・・・・。。。。〔『本草綱目』の薬物名〕

【附方】・・・・・・（No.210）。。。。〔『真齋聚方』におけるNo.]

〔1/5〕。。〔『本草綱目』の5処方の中の1処方を記載]

・「輕粉破口」・・・・。。。「外台」〔A〕〔外台秘要〕〔B]

〔A〕＝『真齋聚方』における略書名。

〔B〕＝『本草綱目』を参照したわかりやすい書名。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・「▲」は、『真齋聚方』に出典が欠落しているもの。

・「――」は、『本草綱目』に出典の記載なきもの。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◎・『真齋聚方』「本草之部 附方」の処方群の「出典」

である『本草綱目』【附方】との考証と考察・◎

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《I.》▼

▼『本草綱目』卷十二「草部」・・・・「草之一」（山草類上）より▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔甘草〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.1）〕・

【附方】・・・・・・（No.223）〔7/35]

- ・①「初生便閉」・・・・・・「▲」〔全幼心鑑]
- ・②「小兒撮口」・・・・・・「玉函」〔金匱玉函]
- ・③「痘瘡煩渴」・・・・・・「直指」〔直指方]
- ・④「陰頭生瘡」・・・・・・「千金」〔千金方]
- ・⑤「代指腫痛」・・・・・・「千金」
- ・⑥「凍瘡發裂」・・・・・・「談埜」〔談埜翁方]
- ・⑦「湯火瘡灼」・・・・・・「李樓」〔李樓奇方]

○〔黃耆〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.17）〕・

【附方】・・・・・・（No.223～224）〔2/14]

- ・①「腸風瀉血」・・・・・・「秘宝」〔孫用和秘宝方]
- ・②「欬嗽膿血」・・・・・・「▲」〔席延賞方]

○〔人參〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.30）〕・

【附方】・・・・・・（No.224）〔11/77]

- ・①「喘急欲絶」・・・・・・「肘後」〔肘后方]
- ・②「産後発喘」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方]
- ・③「産後不語」・・・・・・「良方」〔婦人良方]

- ・④「横生倒産」・・・・・・・・・・「良方」
- ・⑤「虚劳発熱」・・・・・・・・・・「奇效」〔奇效良方〕
- ・⑥「欬嗽吐血」・・・・・・・・・・「朱氏集驗方」
- ・⑦「齒縫出血」・・・・・・・・・・「談埜」〔談埜翁試效方〕
- ・⑧「消渴引飲」・・・・・・・・・・「集驗」

・『本草綱目』には、「鄭氏家伝・・・」「聖濟総録・・・」

の文があるが、この二つの文は省略されている。

- ・⑨「下痢禁口」・・・・・・・・・・「良選」〔経験良選方〕
- ・⑩「老人虚痢」・・・・・・・・・・「十便」〔十便良方〕
- ・⑪「傷寒壞證」・・・・・・・・・・「百一」〔百一選方〕

○〔沙参〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.64）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.225）〔3／3〕

- ・①「肺熱欬嗽」・・・・・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- ・②「卒得疝氣」・・・・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕

・後半の「按 丹参 附方【寒疝腹痛】・・・「聖恵」という按文は、真斎が「丹参」〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.200）〕の附方【寒疝腹痛】の全文をここに引いているものである。

- ・③「婦人白帶」・・・・・・・・・・「要訣」〔證治要訣〕

○〔薺苳〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.69）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.225）〔4／7〕

- ・①「解五石毒」・・・・・・・・・・「図経」〔蘇頌図経〕
- ・②「解諸虫毒」・・・・・・・・・・「▲」〔小品方〕
- ・③「解鉤吻毒」・・・・・・・・・・「玉函」〔金匱玉函〕

・「按 鉤吻野葛也与此説不合」と、真斎の按文がある。

『国訳本草綱目』（第六冊、p.137）の「鉤吻」の【釈名】の項に「野葛」とある。「和名」は、「つたうるし」である。

『本草綱目啓蒙』（卷十三）の「鉤吻」の項には、「黄野葛」とあり、また、「鉤吻」については、諸説のあることが記されている。

- ・④「面上疔皰」・・・・・・・・・・「聖濟」〔聖濟総録〕

・『本草綱目』では、④、②、③、①の順番である。

○〔桔梗〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.75）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.225）〔2／17〕

- ・①「骨槽風痛」・・・・・・・・・・「経験」〔経験後方〕
- ・②「牙疳臭爛」・・・・・・・・・・「易簡」〔易簡方〕

○〔菱薺〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.96）〕・

- 【附方】・・・・・・（No.225）〔1／7〕
- ・①「小便卒淋」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- 〔知母〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.106）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.225）〔1／7〕
- ・①「紫癰風疾」・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- 〔朮〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.130）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.225～226）〔6／31〕
- ・①「五飲酒癖」・・・・・・「局方」〔和剤局方〕
 - ・②「面多●〔黒の右に干〕●〔黒の右に曾〕」・・・・
 ・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕
 - ・③「自汗不止」・・・・・・「千金」〔千金方〕
 - ・④「老小虚汗」・・・・・・「心鑑」〔全幼心鑑〕
 - ・⑤「老小滑瀉」・・・・・・「集簡」〔集簡方〕
 - ・⑥「牙齒日長」・・・・・・「備急良方」
- 〔蒼朮〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.142）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.225～226）〔2／33〕
- ・①「湿気身痛」・・・・・・「簡便」〔簡便方〕
 - ・②「風牙腫痛」・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- 〔貫衆〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.164）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.226）〔7／15〕
- ・①「鼻衄不止」・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
 - ・②「頭瘡白禿」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
 - ・③「漆瘡作癢」・・・・・・「千金」〔千金方〕
 - ・④「雞魚骨哽」・・・・・・「普濟」
 - ・⑤「解輕粉毒」・・・・・・「積徳」〔陸氏積徳堂方〕
 - ・⑥「血痢不止」・・・・・・「集簡」〔集簡方〕
 - ・⑦「便毒腫痛」・・・・・・「多能」〔多能鄙事〕
- 〔遠志〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.173）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.226）〔5／7〕
- ・①「喉痺作痛」・・・・・・「直指」〔直指方〕
 - ・②「腦風頭痛」・・・・・・「宣明」〔宣明方〕
 - ・③「吹乳腫痛」・・・・・・「袖珍」〔袖珍方〕
 - ・④「一切癰疽」・・・・・・「三因」〔三因方〕
 - ・⑤「小便赤濁」・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- 〔淫羊藿〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.179）〕・

【附方】・・・・・・（No.226～227）〔2／8〕

- ・①「仙靈脾酒」・・・・・・「心鏡」〔食医心鏡〕
- ・②「遍風不遂」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○〔玄参〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.190）〕・

【附方】・・・・・・（No.227）〔6／9〕

- ・①「諸毒鼠瘻」・・・・・・「開宝」〔開宝本草〕
- ・②「年久瘰癧」・・・・・・「廣利」〔廣利方〕
- ・③「癰斑〔斑〕咽痛」・・・・・・「活人」〔南陽活人書〕
- ・④「急喉痺風」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・⑤「鼻中生瘡」・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- ・⑥「焼香治癆」・・・・・・「經驗方」

・末尾の小文字文も、『本草綱目』のものである。

○〔地榆〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.195）〕・

【附方】・・・・・・（No.227）〔5／14〕

- ・①「毒蛇螫人」・・・・・・「肘后」〔肘后方〕
- ・②「虎犬咬傷」・・・・・・「梅師」〔梅師方〕
- ・③「代指腫痛」・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・④「小兒湿瘡」・・・・・・「千金」
- ・⑤「小兒面瘡」・・・・・・「総微」〔衛星総微方〕

○〔丹参〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.200）〕・

【附方】・・・・・・（No.227）〔1／7〕

- ・①「丹参散」・・・・・・「明理」〔婦人明理方〕

○〔紫草〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.210）〕・

【附方】・・・・・・（No.227）〔5／9〕

- ・①「嬰童疹痘」・・・・・・「經驗」〔經驗方〕
- ・②「癰疽便閉」・・・・・・「直指」〔直指方〕
- ・③「小兒白禿」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・④「小便卒淋」・・・・・・「千金翼」〔千金翼方〕
- ・⑤「産後淋瀝」・・・・・・「産宝」

○〔白頭翁〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.215）〕・

【附方】・・・・・・（No.227～228）〔2／5〕

- ・①「外痔腫痛」・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- ・②「小兒禿瘡」・・・・・・「肘后」〔肘后方〕

○〔白及〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.219）〕・

【附方】・・・・・・（No.228）〔9／9〕

- ・①「鼻衄不止」・・・・・・「經驗」〔經驗方〕

- ・②「心気疼痛」・・・・・・・・・・「生々」〔生生編〕
- ・③「重舌驚口」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・④「婦人陰脱」・・・・・・・・・・「廣濟」〔廣濟方〕
- ・⑤「疔瘡腫毒」・・・・・・・・・・「袖珍」〔袖珍方〕
- ・⑥「打跌骨折」・・・・・・・・・・「永類」〔永類方〕
- ・⑦「刀斧傷損」・・・・・・・・・・「濟急」〔濟急方〕
- ・⑧「手足皸裂」・・・・・・・・・・「濟急」
- ・⑨「湯火傷灼」・・・・・・・・・・「趙真人方」

○〔三七〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.224）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.228）〔8／8〕

- ・①「吐血衄血」・・・・・・・・・・「集簡」〔集簡方〕
- ・②「赤痢血痢」・・・・・・・・・・「集簡」
- ・③「大腸下血」・・・・・・・・・・「集簡」
- ・④「婦人血崩」・・・・・・・・・・「集簡」
- ・⑤「産後血多」・・・・・・・・・・「集簡」
- ・⑥「男婦赤眼」・・・・・・・・・・「集簡」
- ・⑦「無名癰腫」・・・・・・・・・・「集簡」
- ・⑧「虎咬蛇傷」・・・・・・・・・・「集簡」

●【考察1】●

一部の省略や処方の順番が前後しているところなどがあるものの、基本的に原文のと通りの記載であることに変わりはない。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《Ⅱ.》▼

▼『本草綱目』卷十三「草部」・・・・・・・・「草之二」（山草類下）より▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔黄連〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.229）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.228～229）〔14／〔53〕＝実数による〕

- ・①「熱毒赤痢」・・・・・・・・・・「本事」〔本事方〕
- ・②「下痢腹痛」・・・・・・・・・・「肘后」〔肘後方〕
- ・③「治痢香連丸」・・・・・・・・・・「——」
- ・④「雞冠痔疾」・・・・・・・・・・「斗門」〔斗門方〕
- ・⑤「痔病秘結」・・・・・・・・・・「大成」〔医方大成〕
- ・⑥「痢痔脱肛」・・・・・・・・・・「經驗」〔經驗良方〕
- ・⑦「小兒食土」・・・・・・・・・・「秘訣」〔童子秘訣〕
- ・⑧「小兒月蝕」・・・・・・・・・・「子母」〔子母秘録〕

- ・⑨「預解胎毒」・・・・・・・・・・「湯液」〔湯液本草〕
- ・⑩「腹中児哭」・・・・・・・・・・「補遺」〔熊氏補遺〕
- ・⑪「因驚胎動」・・・・・・・・・・「子母」〔子母秘録〕
- ・⑫「妊娠子煩」・・・・・・・・・・「良方」〔婦人良方〕
- ・⑬「癰疽腫毒」・・・・・・・・・・「簡易」〔簡易方〕
- ・⑭「中巴豆毒」・・・・・・・・・・「肘后」〔肘後方〕

○〔胡黃連〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.250）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.229）〔1／15〕

- ・①「嬰兒赤目」・・・・・・・・・・「仙方」〔濟急仙方〕

○〔黃芩〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.254）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.229～230）〔9／17〕

- ・①「膚熱如燎」・・・・・・・・・・「發明珍注」

・『本草綱目』の「膚熱如燎」の項の原註「方見發明下」を受けて、真斎は〔黃芩〕の【發明】の項の末尾から記載し、出典を「發明珍注」と記している。「珍注」とは言うまでもなく「李時珍」の注のことである。

- ・②「三補丸」・・・・・・・・・・「纂要」〔丹溪纂要〕

・『本草綱目』では、①「膚熱如燎」が、②の後にある。

- ・③「小兒驚啼」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・④「眉眶作痛」・・・・・・・・・・「家珍」〔潔古家珍〕
- ・⑤「吐血衄血」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・⑥「吐衄下血」・・・・・・・・・・「卒病」〔卒病論〕
- ・⑦「血淋熱痛」・・・・・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・⑧「経水不断」・・・・・・・・・・「瑞竹」〔瑞竹堂方〕
- ・⑨「安胎清熱」・・・・・・・・・・「纂要」〔丹溪纂要〕

○〔秦艽〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.266）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.230）〔1／11〕

- ・①「暴瀉引飲」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○〔茈胡〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.270）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.230）〔1／6〕

- ・①「虚勞發熱」・・・・・・・・・・「澹寮」〔澹寮方〕

○〔前胡〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.281）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.230）〔1／1〕

- ・①「小兒夜啼」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕

○〔防風〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.285）〕・

【附方】・・・・・・（No.230）〔6／11〕

- ・①「睡中盜汗」・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- ・②「偏正頭風」・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・③「解烏頭毒」・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・④「解芫花毒」・・・・・・「千金」
- ・⑤「解野菌毒」・・・・・・「千金」
- ・⑥「解諸藥毒」・・・・・・「積善」〔積善堂〕

○〔升麻〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.302）〕・

【附方】・・・・・・（No.230）〔3／13〕

- ・①「胃熱齒痛」・・・・・・「直指」〔直指方〕
- ・②「口舌生瘡」・・・・・・「本事」〔本事方〕
- ・③「熱癰瘡痒」・・・・・・「千金」〔千金方〕

○〔苦参〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.311）〕・

【附方】・・・・・・（No.230）〔4／28〕

- ・①「大腸脱肛」・・・・・・「摘要」〔医方摘要〕
- ・②「下部漏瘡」・・・・・・「直指」〔直指方〕
- ・③「瘰癧結核」・・・・・・「備急」〔備急方〕
- ・④「湯火傷灼」・・・・・・「宝鑑」〔衛生宝鑑〕

○〔延胡索〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.322）〕・

【附方】・・・・・・（No.230）〔3／15〕

- ・①「産後諸病」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・②「疝氣危急」・・・・・・「直指」〔直指方〕
- ・③「墜落車馬」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○〔貝母〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.327）〕・

【附方】・・・・・・（No.230～231）〔5／17〕

- ・①「小兒哮喘」・・・・・・「心鑑」〔全幼心鑑〕
- ・②「吹奶作痛」・・・・・・「得効」〔危氏得効方〕
- ・③「紫白癰斑〔斑〕」・・・・「徳生堂方」「談楚翁方」「聖恵方」
- ・④「蜘蛛咬傷」・・・・・・「直指」〔直指方〕
- ・⑤「蛇蠍咬傷」・・・・・・「直指」

○〔山慈姑〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.334）〕・

○○〔根〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.335）〕・

【附方】・・・・・・（No.230～231）〔2／5〕

- ・①「粉滓面●〔黒の右に干〕」・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・②「牙齦腫痛」・・・・・・「集効」〔集効方〕

○〔白茅〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.343）〕・

【附方】・・・・・・（No.231）〔8／14〕

- ・①「反胃上気」・・・・・・「聖濟」〔聖濟総録〕
- ・②「肺熱気喘」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・③「虚後水腫」・・・・・・「肘后」〔肘後方〕
- ・④「解中酒毒」・・・・・・〔千金方〕

・真斎の「出典」表記に、「肘后」とあるのは誤り。

- ・⑤「小便熱淋」・・・・・・「肘后」〔肘後方〕
- ・⑥「小便出血」・・・・・・「談埜」〔談埜翁方〕
- ・⑦「鼻衄不止」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・⑧「吐血不止」・・・・・・「千金翼〔方〕」

○〔龍胆〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.353）〕・

【附方】・・・・・・（No.231）〔4／10〕

- ・①「小兒盜汗」・・・・・・「百問」〔嬰童百問〕
- ・②「咽喉熱痛」・・・・・・「集簡」〔集簡方〕
- ・③「眼中漏膿」・・・・・・「鴻飛」〔鴻飛集〕
- ・④「蛔虫攻心」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○〔細辛〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.357）〕・

【附方】・・・・・・（No.231～232）〔7／8〕

- ・①「小兒口瘡」・・・・・・「▲」〔衛星家宝方〕
- ・②「小兒客忤」・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- ・③「口舌生瘡」・・・・・・「三因」〔三因方〕
- ・④「口瘡𧏾齒」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・⑤「鼻中息肉」・・・・・・「聖恵」
- ・⑥「諸般耳聾」・・・・・・「経験」〔経験方〕
- ・⑦「暗風卒倒」・・・・・・「得効」〔得効方〕

・『本草綱目』の順番は、⑦、②、①、③・・である。

○〔白微〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.375）〕・

【附方】・・・・・・（No.232）〔5／5〕

- ・①「肺実鼻塞」・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・②「婦人遺尿」・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・③「血淋熱淋」・・・・・・「千金」
- ・④「婦人欠厥」・・・・・・「本事」〔本事方〕
- ・⑤「金瘡出血」・・・・・・「儒門」〔儒門事親〕

ここでも処方記載の順番が前後しているところがある。また、小さな記載ミスもみられるが、大勢には影響ないものである。

真斎が、『本草綱目』の内容を、実に丁寧に検討していることは、数少ない真斎の「按文」からも理解できるであろう。

.....

▼《Ⅲ.》▼

▼『本草綱目』卷十四「草部」.....「草之三」（芳草類）より▼

.....

○〔当帰〕○.....〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.393）〕・

【附方】.....（No.232～233）〔8／27〕

- ・①「大便不通」.....「聖濟」〔聖濟総録〕
- ・②「室女経閉」.....「普濟」〔普濟方〕
- ・③「産難胎死」.....「良方」〔婦人良方〕
- ・④「産後腹痛」.....「良方」
- ・⑤「産後自汗」.....「局方」〔和剤局方〕
- ・⑥「小兒臍湿」.....「聖恵」〔聖恵方〕
- ・⑦「湯火傷瘡」.....「局方」〔和剤局方〕
- ・「按一方 当帰・地黄・芍薬.....」〔主治同前方并治諸腫物痛〕

との、真斎による按文がある。

- ・⑧「白黄色枯」.....「三十六黄方」

○〔芎藭〕○.....〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.405）〕・

【附方】.....（No.233）〔9／19〕

- ・①「気虚頭痛」.....「集簡」〔集簡方〕
- ・②「気厥頭痛」.....「御薬院方」
- ・③「風熱頭痛」.....「簡便」〔簡便方〕
- ・④「頭風化痰」.....「経験」〔経験後方〕
- ・⑤「偏頭風痛」.....「斗問〔門〕」〔斗門方〕
- ・⑥「経閉験胎」.....「靈苑」〔靈苑方〕
- ・⑦「損動胎気」.....「千金」〔千金方〕
- ・⑧「齒敗口臭」.....「廣濟」〔廣濟方〕
- ・⑨「諸瘡腫痛」.....「普濟」〔普濟方〕

○〔蛇牀〕○.....〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.417）〕・

【附方】.....（No.233）〔4／15〕

- ・①「陽事不起」.....「千金」〔千金方〕
- ・②「子宮寒冷」.....「玉函」〔金匱玉函方〕

・③「婦人陰癢」・・・・・・・・・・「集簡」〔集簡方〕

・④「冬月喉痺」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○〔藁本〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.421）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.233）〔2／3〕

・①「乾洗頭屑」・・・・・・・・・・「図纂」〔便民図纂〕

・②「小兒疥癬」・・・・・・・・・・「保幼」〔保幼大全〕

○〔白芷〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.425）〕・

○○〔根〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.427）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.233～234）〔21／34〕

・①「小兒身熱」・・・・・・・・・・「子母」〔子母秘録〕

・②「頭面諸風」・・・・・・・・・・「直指」〔直指方〕

・③「偏正頭風」・・・・・・・・・・「談埜」〔談埜翁試效方〕

・④「眉稜骨痛」・・・・・・・・・・「纂要」〔丹溪纂要〕

・⑤「口齒氣臭」・・・・・・・・・・「濟生方」

・⑥「盜汗不止」・・・・・・・・・・「集驗」〔朱氏集驗方〕

・⑦「脚氣腫痛」・・・・・・・・・・「摘要」〔医方摘要〕

・⑧「婦人難産」・・・・・・・・・・「經驗」〔唐瑤經驗〕

・⑨「大便風秘」・・・・・・・・・・「十便」〔十便良方〕

・⑩「小便氣淋」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕

・⑪「鼻衄不止」・・・・・・・・・・「簡便」〔簡便方〕

・⑫「小便出血」・・・・・・・・・・「經驗」〔經驗方〕

・⑬「腸風下血」・・・・・・・・・・「選奇」〔余居士選奇方〕

・⑭「痔漏出血」・・・・・・・・・・「直指」〔直指方〕

・⑮「痔瘡腫痛」・・・・・・・・・・「摘要」〔医方摘要〕

・⑯「腫毒熱痛」・・・・・・・・・・「易簡」〔易簡方〕

・⑰「乳癰初起」・・・・・・・・・・「秘伝外科〔方〕」

・⑱「刀箭傷瘡」・・・・・・・・・・「集簡」〔集簡方〕

・⑲「解砒石毒」・・・・・・・・・・「事林」〔事林廣記〕

・⑳「諸骨硬咽」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕

・㉑「毒蛇傷螫」・・・・・・・・・・「洪邁」〔洪邁夷堅志〕

・末尾の「小文字部分」も原文のものである。

○〔芍薬〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.435）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.235）〔8／16〕

・①「脚氣腫痛」・・・・・・・・・・「事林」〔事林廣記〕

・②「消渴引飲」・・・・・・・・・・「經驗」〔經驗方〕

・③「經水不正」・・・・・・・・・・「補遺」〔熊氏補遺〕

- ・④「血崩帶下」・・・・・・・・「良方」〔婦人良方〕
- ・⑤「赤白帶下」・・・・・・・・「廣利」〔廣利方〕
- ・⑥「痘瘡脹痛」・・・・・・・・「痘疹」〔痘疹方〕
- ・⑦「木舌腫滿」・・・・・・・・「聖濟」〔聖濟總錄〕
- ・⑧「魚骨硬咽」・・・・・・・・「事林」〔事林廣記〕
- 〔木香〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.451）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.235）〔5／21〕
- ・①「小兒陰腫」・・・・・・・・「小兒」〔曾氏小兒方〕
- ・②「一切癰疽」・・・・・・・・「▲」〔和劑局方〕
- ・③「惡蛇虺傷」・・・・・・・・「袖珍」〔袖珍方〕
- ・④「腋臭陰濕」・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- ・⑤「牙齒疼痛」・・・・・・・・「聖濟」〔聖濟錄〕
- 〔甘松香〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.460）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.235）〔2／4〕
- ・①「勞瘵熏法」・・・・・・・・「奇效」〔奇效方〕
- ・②「面●〔黒の右に干〕風瘡」・・・「良方」〔婦人良方〕
- 〔山柰〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.462）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.235）〔2／6〕
- ・①「面上雀斑」・・・・・・・・「——」
- ・②「醒頭去屑」・・・・・・・・「水雲」〔水雲錄〕
- 〔豆蔻〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.478）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.236）〔1／10〕
- ・①「香口辟臭」・・・・・・・・「肘后」〔肘後方〕
- 〔白豆蔻〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.486）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.236）〔4／5〕
- ・①「人忽惡心」・・・・・・・・「肘后」〔肘後方〕
- ・②「小兒吐乳」・・・・・・・・「得効」〔得効方〕
- ・③「脾虛反胃」・・・・・・・・「濟生」〔濟生方〕
- ・④「産後嘔逆」・・・・・・・・「乾坤」〔乾坤生意〕
- 〔縮砂礬〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.488）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.236）〔7／16〕
- ・①「婦人血崩」・・・・・・・・「良方」〔婦人良方〕
- ・②「口吻生瘡」・・・・・・・・「簡方」〔簡易方〕
- ・③「魚骨入咽」・・・・・・・・「▲」〔百一選方〕
- ・④「齒痛〔牙齒〕疼痛」・・・・・・・・「直指」〔直指方〕
- ・⑤「熱擁咽痛」・・・・・・・・「戴原」〔戴原禮方〕

- ・○「魚骨入咽」・・・・・・・・「▲」〔百一選方〕
- ・③と同様の記載で、ダブリ。
- ・⑥「誤吞諸物」・・・・・・・・「得効」〔得効方〕
- ・⑦「一切食毒」・・・・・・・・「事林」〔事林廣記〕
- ・『本草綱目』では、①、⑤、④、②、③、⑥・・・の
順番である。

○〔益智子〕○・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.493）〕・
【附方】・・・・（No.236）〔4／8〕

- ・①「小便頻数」・・・・・・・・「朱氏集驗〔方〕」
- ・②「腹脹忽瀉」・・・・・・・・「得効」〔得効方〕
- ・③「婦人崩中」・・・・・・・・「産宝」
- ・④「香口辟臭」・・・・・・・・「経験」〔経験方〕

○〔葶苈〕○・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.498）〕・
【附方】・・・・（No.236）〔2／10〕

- ・①「鼻流清涕」・・・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- ・②「風虫牙痛」・・・・・・・・「——」
- ・「本草権度」「聖濟総録」による文を省略している。

○〔肉豆蔻〕○・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.507）〕・
【附方】・・・・（No.236）〔2／7〕

- ・①「霍乱吐利」・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・②「老人虚瀉」・・・・・・・・「瑞竹」〔瑞竹堂方〕

○〔補骨脂〕○・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.511）〕・
【附方】・・・・（No.237）〔2／15〕

- ・①「腎虚腰痛」・・・・・・・・「——」
- ・「和剂局方」による長文を省略している。
- ・②「小兒遺尿」・・・・・・・・「百問」〔嬰童百問〕

○〔薑黃〕○・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.519）〕・
【附方】・・・・（No.237）〔2／4〕

- ・①「心痛難忍」・・・・・・・・「経験」〔経験方〕
- ・②「瘡癰初生」・・・・・・・・「千金翼〔方〕」

○〔鬱金〕○・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.523）〕・
【附方】・・・・（No.237）〔5／13〕

- ・①「自汗不止」・・・・・・・・「集簡」〔集簡方〕
- ・②「衄血吐血」・・・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- ・③「中砒霜毒」・・・・・・・・「事林」〔事林廣記〕

・④「痔瘡腫痛」・・・・・・「摘要」〔医方摘要〕

・⑤「耳内作痛」・・・・・・「聖濟」〔聖濟總録〕

○〔蓬莪茂〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.529）〕・

【附方】・・・・・・（No.237）〔4／9〕

・①「一切冷氣」・・・・・・「家宝」〔衛生家宝方〕

・②「上氣喘急」・・・・・・「保生」〔保生方〕

・③「氣短不接」・・・・・・「秘宝」〔秘宝方〕

・④「初生吐乳」・・・・・・「保幼」〔保幼大全〕

○〔荊三稜〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.533）〕・

【附方】・・・・・・（No.237）〔4／8〕

・①「癰疽鼓脹」・・・・・・「千翼」〔千金翼方〕

・②「反胃惡心」・・・・・・「聖濟」〔聖濟總録〕

・③「乳汁不下」・・・・・・「外台」〔外台秘要〕

・④「渾身燎泡」・・・・・・「得効」〔得効方〕

○〔莎香附子〕○・・・・・・国訳本草綱目』（第四冊、p.540）〕・

【附方】・・・・・・（No.237～238）〔13／48〕

・①「升降諸氣」・・・・・・「局方」〔和劑局方〕

・②「一切氣疾」・・・・・・「局方」

・③「心腹諸痛」・・・・・・「集簡」〔集簡方〕

・④「酒腫虚腫」・・・・・・「經驗」〔經驗方〕

・⑤「氣鬱吐血」・・・・・・「丹溪」〔澹寮方〕

・⑥「小便血淋」・・・・・・「十便」〔十便良方〕

・⑦「女人頭痛」・・・・・・「經驗」〔經驗良方〕

・⑧「耳卒聾閉」・・・・・・「易簡」〔易簡方〕

・⑨「聾耳出汁」・・・・・・「經驗」〔經驗良方〕

・⑩「諸般牙痛」・・・・・・〔普濟方〕

・真齋の出典表記「經驗」は、誤り。

・⑪「牢牙去風」・・・・・・「濟生」〔濟生方〕

・⑫「消渴累年」・・・・・・「——」

・⑬「蜈蚣咬傷」・・・・・・「袖珍」〔袖珍方〕

○〔線香〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.574）〕・

【附方】・・・・・・（No.238）〔1／1〕

・①「楊梅毒瘡」・・・・・・「集簡」〔集簡方〕

○〔藿香〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.575）〕・

【附方】・・・・・・（No.239）〔3／6〕

・①「霍乱吐瀉」・・・・・・「百一」〔百一選方〕

- ・②「香口去臭」・・・・・・・・「摘玄」〔摘玄方〕
- ・③「冷露瘡爛」・・・・・・・・「応驗」〔応驗方〕
- 〔薰草〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.578）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.239）〔2／10〕
- ・①「頭風白屑」・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・②「婦人断産」・・・・・・・・「集要」〔医林集要〕
- 〔澤蘭〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.594）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.239）〔1／5〕
- ・①「産後陰翻」・・・・・・・・「集簡」〔集簡方〕
- 〔香薷〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.603）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.239）〔1／10〕
- ・①「口中臭気」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・②「小兒髮遲」・・・・・・・・「永類」〔永類鈴方〕
- ・③「白禿慘痛」・・・・・・・・「子母」〔子母秘録〕
- 〔假蘇〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.613）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.239）〔2／31〕
- ・①「小兒脱肛」・・・・・・・・「経験」〔経験方〕
- ・②「癰閉不通」・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- 〔薄荷〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.624）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.239）〔3／10〕
- ・①「水入耳中」・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- ・②「蜂●〔萬の下に虫〕螫傷」・・・・・・「外台」
- ・③「火毒生瘡」・・・・・・・・「医説」〔張杲医説〕
- 〔積雪草〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.630）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.239）〔1／4〕
- ・①「男女血病」・・・・・・・・「集験」〔董炳集験方〕
- 〔蘇〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.634）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.239～240）〔3／15〕
- ・①「風狗咬傷」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・②「蛇虺傷人」・・・・・・・・「千金」
- ・③「食蟹中毒」・・・・・・・・「金匱」〔金匱要略〕
- 〔子〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.640）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.240）〔1／9〕
- ・①「食蟹中毒」・・・・・・・・「金匱」〔金匱要略〕
- 〔水蘇〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第四冊、p.644）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.240）〔5／15〕

- ・①「沐髮令香」・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・②「頭生白屑」・・・・・・・・「普濟」
- ・③「暑目昏」・・・・・・・・「聖濟」〔聖濟總録〕
- ・④「中諸魚毒」・・・・・・・・「肘後」〔肘后方〕
- ・⑤「蛇虺螫傷」・・・・・・・・「易簡」〔易簡方〕

●【考察3】●

いくつか省略されている部分もみられるが、これらの「処方群」に学ぶという点において、真斎の記載方法は一貫しているものと言えよう。

◎・むすび・◎

このたび、『真斎聚方』「本草之部 附方」の各処方が、『本草綱目』の各薬物の【附方】からの記載であることが判明したことにより、『真斎聚方』の全体的構成が、ここに初めて明らかになった。

そして、すでに述べたように、真斎は、『真斎聚方』「本草之部 附方」の各処方を、『本草綱目』の各薬物の【附方】の項から、基本的に「原文」そのままの内容で記載している。

それは、これまでの真斎の「筆写・妙出方法」を踏襲しているものである、と言えるであろう。

各処方の妙出については、真斎の臨床家としての必要性から選ばれたものと思われる。

『真斎聚方』「本草之部 附方」もまた、『本草綱目』の各薬物の【附方】の項から臨床的に参考となる処方群を抄出して、臨床研究に役立てるということが目標であった。その「按文」の一つひとつの内容が、それを物語っている。

いずれにしても、『本草綱目』の各薬物の【附方】を、これほど多く記載した真斎の研究態度には、感服せざるを得ない。

以上は、「第1回目の考証」における「むすび」であり、私はこの時点で『真斎聚方』「本草之部 附方」の全体的な評価を急ぐ必要はないと思う。その全体的な評価は、今後、さらなる「考証と考察」を進めてからでも十分であろう。

上記の「むすび」については、今回の「第2回目の考証」においても基本的に変わりはないと言えるであろう。

真斎が記載している処方群には、同名の処方も少なくない。このような処方記載の傾向を探ることは、真斎の医学的な関心を見る上にも大切なことがらである。

〔2019年2月25日、PHN（思想・人間・自然）、第37号、PHNの会発行〕

〔2019年2月25日、和田耕作（C）、無断転載厳禁〕